



# THE LETTER 宇都宮東教室

第2号 干渉

発刊日 2025年9月9日

文責 熊澤洋一

学校や塾の宿題、テスト勉強…お子様を「応援」する保護者様の立場や接し方も様々です。

子どもが小学生のうちは、完全に親の支配下にあるため一緒に勉強する、やらせるのも素直に受け入れてくれると思います。しかし、自我が芽生えてくる思春期の「中学生」は「親の言うことだけ」は素直に受け入れられない生徒が多いですね。今回のテスト勉強の様子を見ていても、保護者様がかなり「気合の入った指導をしているな」と思える生徒が複数名散見できました。しかし、類題、過去問または全く同一問題をやっても「できていない」のが現状です。「忘れた」「実はあいまい」「うなづいていただけ」「復習できていない」…多くの理由があるのでしょうが、必要以上の踏み込んだ指導は、いい結果も生まれない可能性があるかもしれません。お子様が保護者様と向きあっていない勉強をしていたのでは、という印象です、つまり、ただの「やらされ勉強」にすぎなかったかも。他人の言うことは「素直に聞く」のに、親の言うことだけは素直に「聞きたくない」…過干渉の場合…とても「人目が気になる」、「いい顔をしているだけ」、「のちのち反発する」可能性もあります。また、「何でも聞けばいい=考えない」人になってしまう危険も。

うちの子「あるある」で、ごくごく普通の話ですが、「他人の言うこと」には素直な「聞く耳」を持っています。一定期間を過ぎると「そんなこともあったなあ」の話ですが、子育て真っ最中の父様お母様の負担になっているなら、また、お困りの案件があれば「私たちに」相談されてみてください。いつもご協力ありがとうございます。